

# ゼミ教育ときめ細やかなサポートで、 世界を生き抜く力を育む

武蔵大学

Musashi University

多様な考え方を受け入れる  
マインドを育成

武蔵大学といえは、『ゼミの武蔵』。一つのゼミ(ゼミナール)が平均13名で行われるという少人数制の教育は、すでに1950年代から今日まで続いている。このゼミ教育に重点を置いたのは、建学の精神の一つである『自ら調べ自ら考える力ある人物』の育成に適していること。また、ゼミにおける学びや研究内容は自由度が高く、教員の指導のもとに少人数教育を展開していけるというのもその理由といえる。

少人数のゼミ教育を通して武蔵大学が育みたいのは、『世界を生き抜く力』。そして、その実体である『多様な考え方を受け入れるマインド』だという。

約400種類の多彩なゼミから  
研究テーマを選択

全学部の全学生が1年生からゼミ(少人数授業を含む)を必修とし、約400もの豊富な研究テーマの中から選択することが可能。所属するゼミで、担当教員のアドバイザーを受けながら4年間を通して研究を進めていき、集大成となる卒業論文や卒業制作に繋げていく。経済学部では研究成果を発表する機会として学生が企画・運営する『ゼミ大会』へ参加し、審査を経て優勝を競うこともできる。

さらに、他大学と共同でプレゼンテーションやディスカッションを行うなど、研究成果を発表する場合は学外にもあり、交流を通してコミュニケーション力を培うことができる。

専門の異なる4学部が協働し  
課題に取り組むプロジェクト

2007年度、経済産業省の『産学連携による社会人基礎力の育成・評価事業』採択を受けて始まった『学部横断型ゼミナール・プロジェクト』。これは産学連携のもと、企業からの課題に対して、経済・人文・社会の国際教養の4学部の学生が学部学年の枠を越えて一つのチームを構成し、その中でそれぞれの学部の専門性を共有し合って課題に取り組み、最終的に企業へ解決策をプレゼンテーションするPBL型(課題解決型学習)の授業だ。

学部の専門性により、意見がぶつかり合うこともしばしば。そこを乗り越えて、協働作業をすることの意味を理解していく。



社会では、様々な分野の専門家が集まるプロジェクトの中で仕事をし、課題解決を目指す場面がたくさんある。武蔵大学ではそんな時に必要となる幅広い能力を、ゼミ教育と少人数教育を通して身につけていく。

取材・文/野影文香

Interview

## 安心感のある徹底した個人指導が キャリア支援センターの魅力です



武蔵大学 経済学部 経済学科4年  
内定先：日本精工株式会社  
富永 広志 さん

武蔵大学への入学を決めた理由の一つが、少人数で学ぶゼミナールに魅力を感じたからだという富永さん。「様々なテーマに取り組むゼミを通して、自ら行動し、積極的に学ぼうとする力、そして、論理的思考力やプレゼンテーション力などが身についたと実感しています」。これらの力は就職活動にも大いに役立ったと話す富永さんだが、ゼミ大会に力を入れていたために本格的に就活をスタートさせたのは3年生の1月だった。「キャリア支援センターで具体的にどんな企業を志望しているのか、自分の考えを伝えてアドバイスをいただき、とても参考になりました。また、繰り返し模擬面接を行うことで面接のポイントを知るだけでなく、精神面も支えていただきました」。

キャリア支援センターには大勢の相談員が常駐しており、学生が指名して面接練習をすることもできる。「企業で働いていた経験のある相談員からのアドバイスは、納得感や安心感があります。相談内容を踏まえ、興味関心に近そうな業界や企業を紹介していただくなど、個別サポートは徹底しています」。そのほか、企業の検索の仕方や志望動機の組み立て方、集団面接のノウハウなどを多彩な講座でサポートしている。

Information

### 武蔵大学



4年間必修のゼミ・少人数授業に加え、学部横断型ゼミナール・プロジェクトや、2つにまたがる専門領域を学べる副専攻制度で、教養と多様な視点を身につける。学部学科：経済学部(経済学科、経営学科、金融学科)／人文学部(英語英米文化学科、ヨーロッパ文化学科、日本・東アジア文化学科)／社会学部(社会学科、メディア社会学科)／国際教養学部(国際教養学科 経済経営学専攻、グローバルスタディーズ専攻)

●DATA

東京都練馬区豊玉上1-26-1  
TEL 03-5984-3813 (広報部)  
URL <https://www.musashi.ac.jp>

300名以上の先輩が  
経験を生かし後輩をサポート

武蔵大学のキャリア支援センターでは、『個の支援』『講座やイベントによる支援』『情報提供』の3つを柱に、学生へのきめ細やかなサポートが行われている。

中でも、情報提供の「環」として、就職活動を終えた4年生を3年生に紹介し、4年生はボランティアで後輩の就職活動を支援するという取り組みがあり、毎年、300名以上の学生が手を挙げる。

自分自身の就職活動の際に、キャリア支援センターの職員や先輩にお世話になったという感謝の思いから、

恩返しという意味も含めて学生がサポートに回ってくれることを、キャリア支援センターとしてはとても頼もしく感じているという。



キャリア支援センターが大切にしているのは、「卒業できればいい」、「就職できればいい」ではなく、学生自身が選んで、決めて、納得して進んでいく。そのプロセスを全力で応援すること。

キャリアコンサルタントの  
資格をもった相談員が対応

『個の支援』を大切にしているキャリア支援センターの特徴は、在籍している相談員の数が充実していること。そして、センター長から若手の職員まで全員がキャリアコンサルタントの資格を取得しており、それぞれが様々な業界の企業で働いていた経験をもっていることだ。メーカーや人材サービス、営業や人事経験者など業界も職種も多彩だ。

キャリア支援センターを訪れる学生は、相談員のキャリアや経験を生かしたリアルなアドバイスをもらうことができるメリットがある。

キャリア支援センター  
の取り組みの成果!

**就職率98%** (就職希望者900名中878名が就職決定)

**進路納得度は94%** (就職者878名中824名が「自分の進路に納得している」と回答)

2023年3月卒業生の主な就職先  
アクセンチュア、アマゾンジャパン、伊藤忠テクノソリューションズ、インテージ、SMC、大塚商会、京セラ、経済産業省、警視庁、国土交通省、信越化学工業、ジェーシービー、セールスフォース・ジャパン、ソフトバンク、東京国税局、東京都庁、TOTO、ニトリ、日本オラクル、日本政策金融公庫、日本生命保険、農林水産省関東農政局、パイロットコーポレーション、パナソニック、東日本電信電話 (NTT 東日本)、久光製薬、日立システムズ、日立製作所、ファーストリテイリング、富士通、三菱食品、三菱自動車工業、ゆうちょ銀行、雪印メグミルク、ユニチャーム、LINE、楽天銀行、楽天グループ、リクルート ほか



キャリア支援センターでは自ら訪れる学生のサポートだけでなく、3年生の春学期に学年全員と面談を実施している。この面談が就職活動スタートのよいきっかけとなっている学生も多い。一人ひとりの志望や興味関心、適性に合わせた進路計画を立て、伴走する。